

西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.51 2009年11月号

今月は、人はなぜ働くのか、何のために働くのか、ということについて考えてみたいと思います。この問いはいろいろなところで聞きますが、一番多いと思われる答えは

食べるため。生活するため。

といったところでしょうか。でも、この答えだとさらなる疑問がわきます。

では、働くことによって生活できるのはなぜでしょうか？

たとえば、私は映画を観るのが好きですが、毎日映画を観ているだけではおそらく生活していけません。でも、見た映画の評論をして、それが多くの人の役に立つとすれば、ひょっとしたら映画評論家として生活していけるかもしれません（もちろん、そんな才能はありませんけど）。

こう考えると、働くことによって生活できるのは、それが誰かのお役に立った結果、ご褒美としてお金がいただけるからと考えることができないでしょうか。すなわち、人はなぜ働くのか、何のために働くのかといえは、それは、

誰かのお役に立つため

とは考えられないでしょうか。ただ、誰かのお役に立つということは、自分にとっては面倒だったり、苦しかったりすることが多いですから、働くことはたいていの場合、つらく厳しいものです。そういう意味では、働くことそのものが、人生の修行のようなものかもしれません。

働くことはすなわち修行をすること、というのは、松下幸之助さんや稲盛和夫さんを始めとする有名な経営者の方々もおっしゃっていることです。修行であればつらくても厳しくても歯を食いしばってやるしかないのかもしれませんが。その代わりに、この修行には生活ができるようになるということ以外にも大きな報酬があるようです。それは、一生懸命働けば働くほど、人間性が磨かれるという報酬です。

（と、自分を納得させて今日も働いています…）

